

生徒の自主性や主体性を育むキャリア教育の取り組み ～高等部教育実践～

I. 研究目的

高等部でのキャリア教育の実践を検証し、カリキュラム・マネジメントにつなげることをねらいとする。

II. 研究方法

1. 実践期間 令和4年度の1年間（主に特別活動）

2. 対象 高等部全員

3. 研究方法

- ① 「行事に関するアンケート」の実施。
- ② 「野外体験学習」「修学旅行」「文化祭」における事前事後アンケートの実施。

III. 実践内容 「行事に関するアンケート」「目標・振り返りシート」

「行事に関するアンケート」

1学期初めと2学期末に行事に対する気持ちのアンケートを実施。生徒の期待や不安、満足度等を調べる。

「目標・振り返りシート」

左：事前学習 右：事後学習

行事前に目標を相談しながら自分で考える。行事後にはキャリア能力に関する自己チェックを行う。

IV. 実践前評価（行事に関するアンケート）

行事	とても楽しみ				楽しみ				楽しみではない				わからない				無回答			
	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
学年別	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
大学生との交流	2	2	2	6	1	3	5	9	2			2	1	1	3	5				
校外学習(12月)	2	2	4	8	2	2	2	6	1			1	1	2	3	6				
夏まつり	3	3	3	9	2	2	5	9	1			1	1	1	2	4				
野外体験学習	2	1	5	8	1	3	3	7	2	1		3	1			1	2			
学年宿泊	3	3	3	9	2		5	7	2	1		3	1			1	1			
セレソ大阪のサッカー教室	4	3	2	9	2	6	8	16	1			1	2			2	1			

1学期に実施したアンケートでは、6つの行事を75%の生徒が「とても楽しみ」「楽しみ」と回答している。1年生では半数の生徒が「楽しみでない」「わからない」と回答、または「無回答」となっており、高等部での生活にまだ見通しを持っていないことがうかがえる。

V. 実践後評価（行事に関するアンケート）

行事	とても楽しかった				楽しかった				楽しなかった				わからない				無回答			
	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
学年別	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計	1	2	3	計
大学生との交流	1	4	4	9	5	3	2	10			1	1	2		1	3				
校外学習(12月)	5	3	5	13	2	4	3	9				0				0	1			1
夏まつり	3	4	5	12	5	3	3	11				0				0				
野外体験学習	3	5	4	12	5	2	4	11				0				0				
学年宿泊	6	2	4	12	1	5	4	10				0	1			1				
セレソ大阪のサッカー教室	3	6	6	15	3	1	2	6	1			1	1			1				

2学期末に実施したアンケートでは、6つの行事を94.2%の生徒が「とても楽しみ」「楽しみ」と回答している。1年生も1学期は50%だったのが2学期末には87.5%が「とても楽しみ」「楽しみ」と回答しており、ほとんどの生徒が行事での様々な体験学習を楽しんで参加できたことがわかる。

VI. 実践後評価（目標・振り返りシート①）

野外体験学習と修学旅行の比較（2つの行事療法に参加した2・3年生のデータ）

項目(あてはまるところに0をつけましょう。)	2・3年生 野外体験(%)				2・3年生 修学旅行(%)			
	よくできた	できた	あまりできなかった	できなかった	よくできた	できた	あまりできなかった	できなかった
①ルールを守ることができましたか。	85.7	14.3	0	0	60	40	0	0
②友だちとなかよくできましたか。	50	50	0	0	60	40	0	0
③自分の役割や仕事がかかっていましたか。	64.3	28.6	7	0	60	40	0	0
④自分の役割や仕事に取り組みましたか。	78.6	21.4	0	0	60	40	0	0
⑤わからないことや困った時に、質問や相談ができましたか。	42.9	42.9	14.3	0	53.3	40	0	6.7
⑥頑張ったことや次の目標を考えられましたか。	71.4	28.6	0	0	53.3	40	0	6.7

- ①②④の項目において、全ての生徒が「よくできた」「できた」と評価している。
- ③の項目において、修学旅行では全ての生徒が役割を意識することができた。
- ⑤の項目において、質問や相談を「よくできた」と感じる生徒が増えた。
- ⑥の項目において、自分自身で自分の行動を振り返り、次の目標を考えることに難しさを感じていることがわかる。

VII. 実践後評価（目標・振り返りシート②）

野外体験学習と文化祭の比較（高等部全員のデータ）

項目(あてはまるところに0をつけましょう。)	1・2・3年生 野外体験(%)				1・2・3年生 文化祭(%)			
	よくできた	できた	あまりできなかった	できなかった	よくできた	できた	あまりできなかった	できなかった
①ルールを守ることができましたか。	69.6	30.4	0.0	0	73.9	26.1	0.0	0.0
②友だちとなかよくできましたか。	43.5	56.5	0.0	0.0	69.6	30.4	0.0	0.0
③自分の役割や仕事がかかっていましたか。	56.5	21.7	17.4	4.3	82.6	8.7	8.7	0.0
④自分の役割や仕事に取り組みましたか。	56.5	39.1	4.3	0	65.2	34.8	0.0	0.0
⑤わからないことや困った時に、質問や相談ができましたか。	30.4	52.2	13.0	0	52.2	30.4	8.7	4.3
⑥頑張ったことや次の目標を考えられましたか。	56.5	34.8	8.7	0	60.9	26.1	4.3	4.3

- 全ての項目において「よくできた」の数値が上がっていた。
- ②③の項目において、「よくできた」の数値が大きく上がっていることから、約半年の学校生活で友だちとの関係が深まったことや役割などを意識できるようになったことがわかった。
- ⑤⑥の項目において、質問や相談をしたり、頑張ったことや目標を考えることが「あまりできなかった」「できなかった」と感じる生徒が見られるので、今後も引き続き取り組む必要性を感じた。

VIII. 考察

- 生徒が自分の目標や役割を意識する気持ちが高まり自信を持って活動する姿が見られるようになった。
- 自ら課題を見つけて目標を立てることや質問をしたり相談をしたりすることには困難さがあることがわかった。
- 行事に楽しく参加できており、キャリア能力の向上がみられるため、次年度も今年度の教育課程を概ね継続する。

IX. 引用・参考文献

・稲富泰輝 児童が意思力を高めていく学習の在り方—総合的な学習の時間におけるキャリア教育を通して— 東京都教職員決定能研修センター <https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/09seika/reports/files/kenkyusei/h18/k-29.pdf>

・梶田叡一 1996 <自己>を育てる—真の主体性の確立—(子どもの発達と教育2) 金子書房

・キャリア発達支援研究会(編) 2017 「関係」によって気付くキャリア発達、「対話」によって築くキャリア教育 (キャリア発達支援研究4) ジアース教育新社

・長澤正樹 2001 重度知的障害のある児童生徒を対象とした自己選択の実態—養護学校における食事と遊び場面に基づく調査研究— 発達障害研究,23(1),54-62.

・奈須正裕 1996 学ぶ意欲を育てる—子どもが生きる学校づくり—(子どもの発達と教育5) 金子書房

・田中道治・都筑学・別所哲・小島道生 2007 発達障害のある子どもの自己を育てる—内面世界の成長を支える教育・支援— ナカニシヤ出版

・都筑学 2004 思春期の子どもたちの生活現実と彼らが抱えている発達の困難さ—小学校から中学校への移行期について— 心理科学,24(2),14-30.

・文部科学省 「キャリア・パスポート」例示資料等について https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1419917.htm